

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ワールドツアー」

テーマ:「天才発明家なのに、ドジな美少女」

キャラクター

50

ストーリー

35

テーマ(設定)

40

文章力

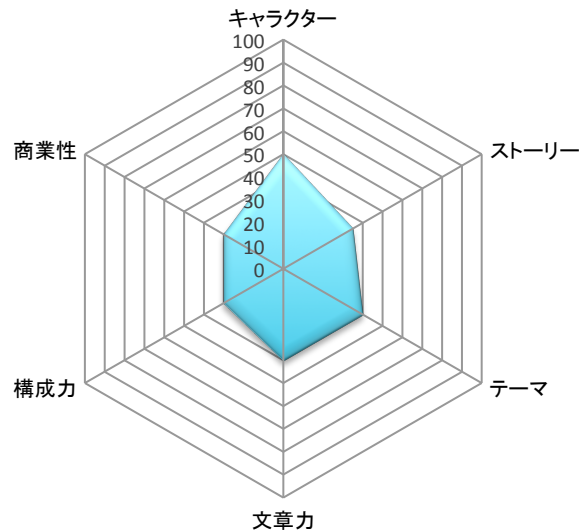
40

構成力

30

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・小説というより絵本や漫画、特に昭和20年代の漫画(例えば初期の手塚治虫や横井福次郎などの作品)の脚本に非常に似ている。恐らくこの小説が昭和20年に出版されれば大ヒットしたであろうと思われる。しかし旅行番組やグループアースで世界各国の名所の光景が然程珍しいものではなく、今の時代だと、このように単に世界旅行をするというだけでは差別化は難しく、読者の興味を惹くには難しいものがある。漫画や絵本にはなく小説のみにある魅力の一つとして、人間同士の絡みやそれに伴う心情変化の描写ができるという点かあげられる。そういった意味では単に世界旅行をするだけではなく、世界旅行をしたことによって発生する人間の心の動きなどを描くことで更に小説らしい面白さが生まれたのではないかと考える。

・この小説における最大の魅力が何であるのか不明瞭な作品となってしまっている。主人公と天才の二人の距離が少しずつ近づいていくドキドキ感がこの小説の売りなのか、各国名所の世界観を味わえることが売りなのか、はっきりとさせることでこの小説は更に面白くなったと考えられる。例えば前者が売りであるならば、「日本に戻れなくなった」という設定を活かして、何とか戻るように二人で努力し、その過程で少しずつ仲良くなり恋心が芽生えてきた、といったストーリーにする。今作では世界の名所のランダムマッチで日本が出てくるのをひたすら待つという作戦をとっているのだから人間ドラマを生み出すことは難しい。後者の世界観を売りにするのであれば、行く国の数をもう少し絞った方が良くと思われる。フランスやアフリカやメキシコとかなり多くの場所に移動してしまっている分1国あたりの印象が薄れている。

合計加点ポイント 0

総得点: 225 / 600

B方式総合得点: 8438 点